

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11090

研究課題名(和文)「チーム思春期」の組織化と支援者への影響

研究課題名(英文)Organization of "teams for adolescents" and its impact on supporters

研究代表者

古山 美穂(大北美穂)(FURUYAMA, MIHO)

大阪公立大学・大学院看護学研究科 准教授

研究者番号：40290366

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):既存の行政システムの枠を超え、子どもの生活範囲で教育、学校外の医療、保健、福祉の専門家、地域NPO団体が集う「チーム思春期」を大阪府下「河内長野・富田林地区」、「北河内地区」、「堺地区」、「羽曳野地区」で立ち上げた。現在185名が登録し、情報発信、勉強会、活動、調査・研究の4つの柱で横断的な多職種連携強化を進めた。登録者は顔が見える連携先が増えたり、自分の専門性を明確にできたりするなど効果があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門家はそれぞれの教育課程を経て資格を取得し、学校や病院、行政などで思春期の子どもとその親に対して支援を行っている。また同じ業種が集う学会や研修会でスキルアップを図っている。しかし他職種の役割や子ども・親へのアプローチ方法の違いは十分知り得ず、子どもの生活範囲にいる他職種の存在やリソースは共有しきれていない。地域内で顔が見える信頼関係に基づいた専門家の横つながりを強化することで、思春期の子どもやその家族、特に支援を必要とする対象にスピーディで円滑な支援が可能となる。

研究成果の概要(英文):In Osaka Prefecture "Kawachinagano/Tondabayashi area", "Kitakawachi area", "Sakai area", "Habikino area", going beyond the framework of the existing administrative system, "Team for adolescents" was launched, bringing together specialists in education, out-of-school medical care, health, welfare, and local NPOs within the scope of children's daily lives.

研究分野：母性看護学、助産学、社会福祉学

キーワード：思春期 多職種連携 学校 要支援児童 子育て支援 地域

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近い将来、親となり、社会を支える思春期の子どもへの課題は、人口減少の影響もあるのか、この10年で少年犯罪や10代妊娠、性感染症は減少あるいは横ばいとなり、学校でのいのちの教育やセクシュアリティ教育に効果があったといわれている。一方で自殺、不登校、家庭内暴力の増加や自己肯定感の向上がみられない現状をみると、今のいのちの教育やセクシュアリティ教育では十分支援しきれていないともいえる。10代の子どもへの自殺は、健やか親子21の第1次計画で悪化した指標の1つであり、その原因には、うつ病や孤独感の他、親子関係の不和、家族のしつけ・叱責や学業不振、進路に関する悩み等がある(厚生労働省)。家庭内暴力の原因も、過去10年で「しつけ等親の態度に反発して」2.7倍、「勉強をうるさく言われて」3.8倍と増えており(警察庁生活安全局) 家庭、特に母親(今の日本での主たる養育者)や社会(学校)が求める価値観が子どもを自殺や暴力の加害に追い込むほど、単一で、子ども1人1人の能力や希望に相応していない可能性がある。「正しい子育て」や「正しい生き方」といった幅のない「正しさ」に右往左往し、「幸福だ」「これでいい」という自己肯定感の少ない親や子どもが増えたと、すでに連携している教育・医療・保健・福祉の専門職者間で共有している課題であった。子どもは親(教師など重要他者も含む)との関係を通して、自らの存在がどのように受け入れられているのを知り、それは他者との関係構築の基盤となる。子どもにとって思春期は、親や友達とは異なる自分独自の内面の世界があると気づき、自意識と客観的事実との違いに悩み、葛藤の中で生き方を模索する時期である。しかし今の思春期の子どもは、学校と放課後の塾やアルバイトの往復で一日が終わる、学校に適応できず引きこもる、ネット依存・ゲーム依存など刹那の快楽に頼って時間を費やすなど、自身の内面と対峙する時間がなく、深く洞察する機会が減っていたり、大人と多様な価値観を共有する時間や機会が少なく、葛藤から抜け出すヒントが得にくかったりしている。そこで思春期の子どもが心身の発達相応に、自分のこれからの生き方が模索できるよう、親や教師以外の大人と接する機会を増やし、多様な生き方があることを想像しやすくする方策を検討するために、教育・医療・保健・福祉の専門家、地域NPO団体等が、それぞれの専門性を向上させ、連携を強化し、最終的に子ども1人1人のQOL向上をめざす地域のニーズに合った「チーム思春期」を創り、その効果を実証することに着眼した。

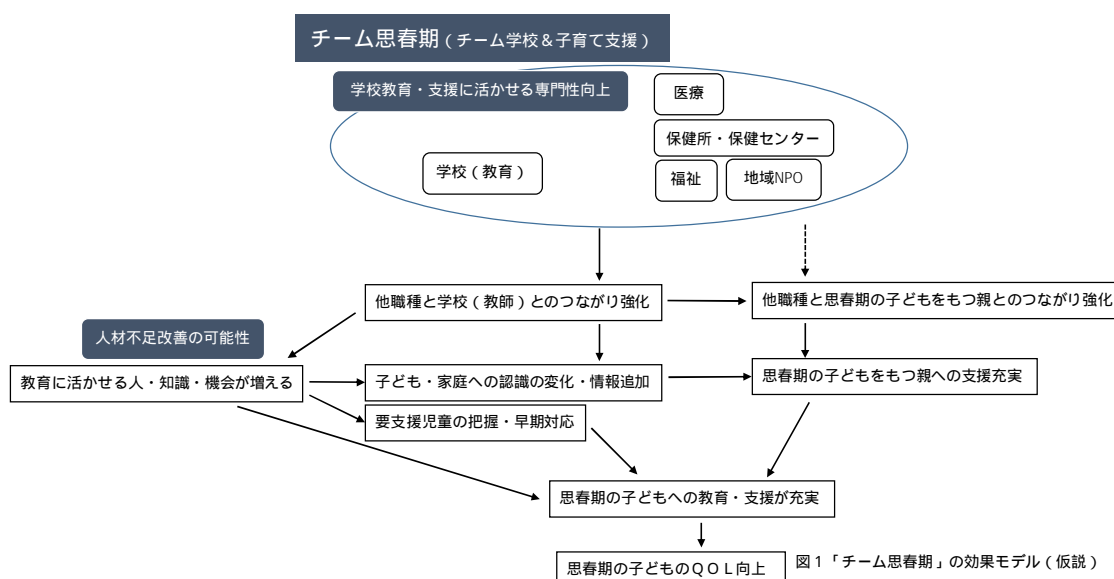


図1 「チーム思春期」の効果モデル(仮説)

## 2. 研究の目的

目的 地域の特色に馴染んだ「チーム思春期」の組織化までのプロセスをアクションリサーチで明らかにし、他の地域で応用できるようにする

目的 「チーム思春期」に参画することで、教育・医療・保健・福祉、地域 NPO 団体の支援者それぞれがこれまで行ってきた活動(教育や支援)にどのような影響があったかを明らかにする

日本の学校は 9 割を教師が占めており、学校という場に教師以外の多くの他職種が入る諸外国とは異なる状況にある。2015 年 12 月に答申された「チーム学校」(文部科学省)は、学校や教員の業務を見直し、学校内に多様な専門性をもつ職員が学校教育に参画して、学校の複雑化・多様化した課題に取り組もうとするものである。本研究の「チーム思春期」は、学校単位ではなく、子どもの生活範囲となる地域に枠を広げた学校外の専門職、NPO 団体などが集うチームとし、「チーム思春期」が上手く軌道にのれば、「チーム学校」がめざす学校教育に参画するリソースとして協働できる可能性がある。また 2016 年 6 月閣議決定された「子育て世代包括支援センター」(厚生労働省)は、妊娠・出産・育児に焦点をあて「包括的な支援」を通じて、妊産婦・乳幼児等の生活の質の改善や、胎児・乳幼児にとって良好な生育環境の実現・維持を図ることを目的としている。本研究の「チーム思春期」は、思春期の子どもと、その親(家族)に対し予防的な視点で「包括的な支援」ができるのかを探る。本研究は大阪府において行い、府外にも応用できるモデル地区、モデルシステムを示す。

## 3. 研究の方法

目的 地域のチームのコアメンバーを決める。すでに連携している専門職を通して、教育・医療・保健・福祉各分野の専門家がバランスよくコアメンバーになるよう、職能団体や機関を紹介してもらい、長や管理者に研究の趣旨を説明し、人材を推薦してもらう。コアメンバーで支援(活動)に有用な地域の範囲設定、地域の特色に馴染んだ「チーム思春期」の目的、活動内容、運用について検討し組織化を図る。

目的 「チーム思春期」に参画することで下記の効果(仮説)があったかを登録者を対象に質問紙調査を行う。

- ・他職種とのつながりが強化される
- ・自身の職業アイデンティティが明確になる(進化する)
- ・支援に活かせるリソース(情報、アイデア、援助希求先)が増える
- ・子どもやその家族への支援にやりがいが高まる

## 4. 研究成果

目的 地域の特色に馴染んだ「チーム思春期」を現時点で「河内長野・富田林地区」、「北河内地区」、「堺地区」、「羽曳野地区」、「それ以外の地区その他」を大阪府下で立ち上げた。既存の行政システムではカバーできない専門職間の連携ができるようにした。現在 185 名が登録している。情報発信、勉強会、活動、調査・研究の 4 つの柱を立てて多職種連携を強化する仕掛けをつくった。情報発信ツールとしてホームページ、地区ごとや全体、コアメンバーだけのメーリングリスト、LINE のオープンチャットで興味関心に合わせた 5 つのトークルームを作成、整備した。勉強会は当初、地区ごとや全体で会場を借りて地区ごとに定期的に行っていたが、コロナ禍となり、対面の交流ができないため zoom を利用して月に 1 回の定例ワールドカフェを企画した。ワールドカフェにおける話題提供者は登録者で持ち回り、19 回行った。他職種の支援内容や考えなどが共有できた。活動は多岐にわたり、医療と学校が連携して要支援児童

の妊娠・性感染症の受診や学校におけるセクシュアリティ教育実践者の橋渡し、保育園卒園生とその親を対象にしたホームカミング（中1の会）、市養護教諭部会と福祉行政とをマッチングさせて勉強会や事例検討会を行った。調査・研究は他職種と交流する中で研究課題が明らかとなり、現在複数の研究が進行中である。

目的 年に1回計3回の調査を行った。顔が見える人や機関ができた（52%、59%、75%）、元々知っている人や機関をさらに深く知るようになった（48%、64%、80%）、その専門家や機関は2人以上あるいは2機関以上と複数である（55%、67%、60%）、他分野と違う自身の職業アイデンティティが明確になった（46%、61%、70%）、自身の仕事や活動にやりがいが高まった（72%、74%、80%）、情報や援助希求先などが増えた（64%、91%、80%）と「チーム思春期」の効果が一定認められた。ただ登録者が多い割に調査への回答率が19.2%、11.0%、10.8%と低く、情報の受け取りで終始している登録者が多いことが推測された。全登録者の役に立つチームを組織化できたかを評価するには課題が残った。引き続き「チーム思春期」を運営していく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>菊川 佳世, 古山 美穂, 中嶋 有加里, 渡邊 香織                                 | 4. 巻<br>62(1)         |
| 2. 論文標題<br>つわり症状の実態と妊娠前の食事内容との関連                                      | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>母性衛生  | 6. 最初と最後の頁<br>88-98   |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>工藤里香, 古山美穂  | 4. 巻<br>20(2)         |
| 2. 論文標題<br>小学校・中学校の養護教諭から見た思春期女子の月経に関する健康行動を構成している概念                  | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>看護ケアサイエンス学会誌  | 6. 最初と最後の頁<br>127-136 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>宇田川直子, 渡邊香織, 佐保美奈子, 古山美穂                                    | 4. 巻<br>61 (1)        |
| 2. 論文標題<br>小児期発症の1型糖尿病女性が経験する月経周期に伴うセルフケア                             | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>母性衛生  | 6. 最初と最後の頁<br>95-103  |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>高知恵, 佐保美奈子, 古山美穂, 山田加奈子                                     | 4. 巻<br>39 (1)        |
| 2. 論文標題<br>SNSを利用する「今どき」高校生に合わせた「おつきあいのマナーかるた」改訂版を利用したワークショップの実践とその効果 | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>思春期学  | 6. 最初と最後の頁<br>173-180 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>古山美穂                             | 4. 巻<br>21            |
| 2. 論文標題<br>地域子育て支援センターにおける`ママカフェ`から母親が得た効果 | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>子どもの虐待とネグレクト                     | 6. 最初と最後の頁<br>369 375 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし             | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>才村純、都築繁幸、植田美津恵、伊藤嘉余子、久保樹里、栗山直子、土田美世子、古山美穂、和田一郎  | 4. 巻<br>4             |
| 2. 論文標題<br>新型コロナ禍における子育て家庭の育児ストレスや子ども虐待の実態及びその対策に関する予備的研究 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>東京通信大学紀要  | 6. 最初と最後の頁<br>339-357 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                    | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>古山美穂                  |
| 2. 発表標題<br>要支援児童を疑う子どもへの多職種連携の実際 |
| 3. 学会等名<br>第68回近畿学校保健学会          |
| 4. 発表年<br>2021年                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>三浦 恭子, 渡邊 香織, 古山 美穂           |
| 2. 発表標題<br>周閉経期の女性の避妊行動に対する関連要因についての文献検討 |
| 3. 学会等名<br>第62回日本母性衛生学会学術集会              |
| 4. 発表年<br>2021年                          |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>古山 美穂                   |
| 2. 発表標題<br>乳幼児のことばの発達を促す子育て支援講座の評価 |
| 3. 学会等名<br>第62回日本母性衛生学会学術集会        |
| 4. 発表年<br>2021年                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高知恵、千葉貴子、吉田涼子、加藤美里、森真穂、山田加奈子、古山美穂、中嶋有加里、佐保美奈子、森本明子、渡邊香織 |
| 2. 発表標題<br>総合周産期母子医療センターで出産したアジア系在住外国人妊産婦の国籍・出身地別の分娩期に関連する指標の実態    |
| 3. 学会等名<br>第36回日本国際保健医療学会学術集会                                      |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>森真穂、高知恵、吉田涼子、加藤美里、千葉貴子、中嶋有加里、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子、渡邊香織 |
| 2. 発表標題<br>A総合周産期母子医療センターで出生したアジア系在留外国人妊産婦の新生児指標の実態           |
| 3. 学会等名<br>第36回日本助産学会学術集会                                     |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤美里、高知恵、森真穂、吉田涼子、千葉貴子、中嶋有加里、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子、渡邊香織 |
| 2. 発表標題<br>A総合周産期母子医療センターで出生したアジア系在留外国人妊産婦の妊娠期指標の実態           |
| 3. 学会等名<br>第36回日本助産学会学術集会                                     |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>C.Koh,T.Hina,K.Watanabe,M.Saho,Y.Nakajima,M.Furuyama,K.Yamada and Y.Nakai   |
| 2. 発表標題<br>Current Status of Behavior,Knowledge,and Influencing Factors of HPV Vaccination among Female University Students in Japan |
| 3. 学会等名<br>2022 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>高知恵、千葉貴子、吉田涼子、加藤美里、森真穂、中嶋有加里、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子、渡邊香織 |
| 2. 発表標題<br>A総合周産期母子医療センターで出生したアジア系在留外国人の国籍・出身地別の妊娠期指標の実態      |
| 3. 学会等名<br>第36回日本助産学会学術集会                                     |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>佐保美奈子、古山美穂、高知恵、山田加奈子、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨 |
| 2. 発表標題<br>HIVサポートリーダー養成研修 10年間の成果と展望                    |
| 3. 学会等名<br>第34回日本エイズ学会学術集会                               |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高知恵、宮下ルリ子、古山美穂、渡邊香織                     |
| 2. 発表標題<br>在日コリアンコミュニティに居住する在日コリアン母親の現在の家族形成に至った思い |
| 3. 学会等名<br>第40回日本看護科学学会学術集会                        |
| 4. 発表年<br>2020年                                    |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>田中如、菅野正嗣、高知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、中嶋有加里、渡邊香織 |
| 2. 発表標題<br>セクシュアリティ教育のためのデジタルかるたの提案                 |
| 3. 学会等名<br>第83回情報処理学会全国大会                           |
| 4. 発表年<br>2021年                                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子                          |
| 2. 発表標題<br>SNSを利用する「今どき」の高校生に合わせた「おつきあいのマナーかるた」改訂版の作成と実践 |
| 3. 学会等名<br>第38回日本思春期学会学術集会                               |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、仁木貞夫、土井章裕、岡本友子、立花久裕、辻岡舞衣子、北畠朋子、白阪琢磨 |
| 2. 発表標題<br>臨床看護職による大阪府立A高校におけるクラス単位エイズ予防教育の実践                       |
| 3. 学会等名<br>第33回日本エイズ学会  |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高知恵、渡邊香織、佐保美奈子、中嶋有加里、古山美穂、山田加奈子、比名朋子、中井祐一郎        |
| 2. 発表標題<br>女子大学生のHPVワクチン接種意思とセクシュアリティに関する認知・行動－看護系と一般学部生の比較－ |
| 3. 学会等名<br>第63回日本母性衛生学会学術集会                                  |
| 4. 発表年<br>2022年  |

〔図書〕 計1件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>渡邊香織, 都筑千景, 佐保美奈子, 中嶋有加里, 古山美穂, 大川聡子, 山田加奈子, 高知恵, 根来佐由美, 安本理抄, 大野志保ほか多数 | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>ミネルヴァ書房   | 5. 総ページ数<br>587 |
| 3. 書名<br>保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典  |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| 思春期の子どもを支える会<br><a href="https://www.omu.ac.jp/nurs/adsupport/">https://www.omu.ac.jp/nurs/adsupport/</a> |
|---|

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                          | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 渡邊 香織<br><br>(WATANABE KAORI)<br><br>(30281273) | 大阪府立大学・看護学研究科・教授<br><br><br><br>(24403)        |    |
| 研究分担者 | 山野 則子<br><br>(YAMANO NORIKO)<br><br>(50342217)  | 大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授<br><br><br><br>(24403) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|